

# 災害時の避難 ARで体験

## 市川の特別支援学校

筑波大学付属聴覚特別支援学校（市川市）とNTT東日本千葉事業部（千葉市）は12日、同校でAR（拡張現実）を用いて災害の危険性などについて学ぶ「体験型防災教室」を開催した。同事業部によると、特別支援学校での開催は県内で初めてという。

（落合俊）

## NTTが防災教室

台風シーズンに向けて「誰一人取り残さないための防災」を楽しく学んでもらう目的で開かれ、同校の体育館を会場に5、6年生計13人が参加した。

児童たちは、仮想空間が映し出されるARゴーグル



を装着し、浸水して足元が見えない状況を体験。通路には障害物に見立てたコーン標識が置かれ、児童は手に持った傘で障害物を確認しながらの避難に挑戦した。

AR体験のほか、同事業部員による講義も行われ、非常時に備えて普段から食品を多めに購入して備蓄する「ローリングストック」や、避難所でエコノミークラス症候群を防ぐための運動のやり方などについて学んだ。

参加した同校5年、服部由依さん（10）は「（ARを用いた訓練は）初めての体験でどきどきした。家の近くに江戸川が流れていてあふれるかもしれないから、早めに避難するようにしたい」と気を引き締めていた。伊藤僚幸校長（59）は「音が聞こえにくい子どもたちがARを使って視覚的に災害を疑似体験できた。防災意識を高めるために有効だった」と話した。

①ARゴーグルをつけて、浸水時の状況を体験する児童②防災についての講義も行われた（いずれも12日、市川市の筑波大学付属聴覚特別支援学校で）